

先天性心疾患

■心弁膜症のほとんどは（ ）の後遺症として発症することが多く、心臓の弁狭窄、他に弁閉鎖不全がおこる。最も多いのは僧房弁狭窄症である。心弁膜症は、（ ）の原因となる。

■（ ）では、心収縮期に左心房から右心房へ血液が流入するため、左心室への血流量が減少し心拍出量が減少する。

■（ ）は、心収縮期に左心室から右心室へ血液が流入するため、心拍出量が減少する。

■（ ）は、肺動脈狭窄、心室中隔欠損、大動脈騎乗、右心室肥大の 4 徴を伴う。

肺性心

■（ ）によって、肺への血流が障害され、（ ）不全をおこすものを肺性心という。

■慢性肺性心をおこす疾患として、肺気腫、慢性気管支炎など（ ）がある。

大動脈瘤

■大動脈の（ ）によって、大動脈壁が紡錘状に拡大したものである。

■40 歳以上の男性に多い。（ ）が最も多い。

■大動脈瘤の約 60%で中膜(筋層)が壊死し大動脈壁が剥離するという（ ）がおこる。

バージャー病 (Buerger 病)

■原因不明だが青壮年の（ ）に多い。（ ）とは関係ない。

四肢の小血管が炎症をおこすため、指趾の冷感、シビレ感、蒼白化、間塞性血栓性血管炎、間欠性跛行などがおこる。重症化すると、安静時疼痛、潰瘍、壊死をおこす。

閉塞性動脈硬化症 (ASO)

■40 歳以上の（ ）に多く、下肢の太い血管の（ ）によりおこる。

■Fontain の分類では、Ⅰ度：無症状、Ⅱ度：（ ）、Ⅲ度：虚血性安静時疼痛、Ⅳ度：（ ）となっている。

■（ ）に合併しやすい。大腿動脈、膝窩動脈、足背動脈などの拍動低下がみられる。

■ABPI 値($ABPI = \text{足関節収縮期血圧} \div \text{上腕収縮期血圧}$)が（ ）未満では ASO が疑われる。

血栓性静脈炎

■（ ）でおこりやすい。表在静脈の炎症とその部位の血栓形成のため、発赤、疼痛がみられる。

深部静脈血栓症（エコノミー症候群）

- （ ）、（ ）、長時間足を動かさないことにより、下肢の深部静脈に血栓ができ、（ ）をおこすと死に至ることもある。
- 予防として、（ ）、（ ）などがある。

下肢静脈瘤

- （ ）、高齢女性に多い。
- 下肢の静脈の（ ）の障害により静脈に血液がうっ滞し血管が太くなりこぶのように盛り上がる。

結節性多発動脈炎

- （ ）の全身性の血管炎である。

貧血

- 貧血は、赤血球の異常や減少によっておこる。それにより、全身への（ ）が減る。
- 鉄イオンが体内で不足することによって小血球性低色鉄欠乏性貧血素性の（ ）が起こる。若い（ ）や妊婦に多い。
- （ ）は、B₁₂の腸管からの吸収障害によっておこる。巨赤芽球性の貧血である。
- 正球性正色素性の貧血には、（ ）、（ ）、（ ）がある。
- （ ）は、造血幹細胞の障害によっておこり赤血球、白血球、血小板とも減少する。
- （ ）は自己免疫性溶血性貧血や血液型不適合等によって赤血球の破壊(溶血)がおこる。
- （ ）は、エリスロポエチンの分泌低下により赤血球の産生が障害される。

白血病

- 腫瘍化した血球細胞の血液中での異常な増殖であり、白血球に多いため（ ）といわれる。高齢者で増加傾向にある。
- （ ）はウイルス性の白血病で40歳以上の成人に発症する。

血友病

- 第Ⅷ、もしくはⅨの（ ）異常により、血液凝固障害をおこす。
- （ ）遺伝病で、男児に現れる。
- 血小板数は（ ）で、出血時間とプロトロンビン時間は正常であるが全血凝固時間は延長する。
- 重症例では、関節内出血の繰り返しによる（ ）や、（ ）による死亡がみられる。

先天性心疾患

■心弁膜症のほとんどは（**リウマチ熱(A群溶連菌感染)**）の後遺症として発症することが多く、心臓の弁狭窄、他に弁閉鎖不全がおこる。最も多いのは僧房弁狭窄症である。心弁膜症は、（**脳塞栓**）の原因となる。

■（**心房中隔欠損症**）では、心収縮期に左心房から右心房へ血液が流入するため、左心室への血流量が減少し心拍出量が減少する。

■（**心室中隔欠損症**）は、心収縮期に左心室から右心室へ血液が流入するため、心拍出量が減少する。

■（**ファロー四徴症**）は、肺動脈狭窄、心室中隔欠損、大動脈騎乗、右心室肥大の4徴を伴う。

肺性心

■（**肺疾患**）によって、肺への血流が障害され、（**右心**）不全をおこすものを肺性心という。

■慢性肺性心をおこす疾患として、肺気腫、慢性気管支炎など（**慢性閉塞性肺疾患(COPD)**）がある。

大動脈瘤

■大動脈の（**アテローム硬化(粥状硬化)**）によって、大動脈壁が紡錘状に拡大したものである。

■40歳以上の男性に多い。（**腹部大動脈瘤**）が最も多い。

■大動脈瘤の約60%で中膜(筋層)が壊死し大動脈壁が剥離するという（**解離性大動脈瘤**）がおこる。

バージャー病 (Buerger 病)

■原因不明だが青壮年の（**喫煙男性**）に多い。（**動脈硬化(アテローム硬化)**）とは関係ない。四肢の小血管が炎症をおこすため、指趾の冷感、シビレ感、蒼白化、間塞性血栓性血管炎、間欠性跛行などがおこる。重症化すると、安静時疼痛、潰瘍、壊死をおこす。

閉塞性動脈硬化症 (ASO)

■40歳以上の（**男性**）に多く、下肢の太い血管の（**動脈硬化(アテローム硬化)**）によりおこる。

■Fontainの分類では、Ⅰ度：無症状、Ⅱ度：（**間欠性跛行**）、Ⅲ度：虚血性安静時疼痛、Ⅳ度：（**潰瘍、壊疽**）となっている。

■（**糖尿病**）に合併しやすい。大腿動脈、膝窩動脈、足背動脈などの拍動低下がみられる。

■ABPI値(ABPI=足関節収縮期血圧÷上腕収縮期血圧)が（**0.9**）未満ではASOが疑われる。

血栓性静脈炎

■（**長期臥床**）でおこりやすい。表在静脈の炎症とその部位の血栓形成のため、発赤、疼痛がみられる。

深部静脈血栓症（エコノミー症候群）

■（ **長期臥床** ）、（ **ギプス固定** ）、長時間足を動かさないことにより、下肢の深部静脈に血栓ができ、（ **肺塞栓** ）をおこすと死に至ることもある。

■予防として、（ **足関節の運動** ）、（ **弾力包帯を巻くこと** ）などがある。

下肢静脈瘤

■（ **妊婦** ）、高齢女性に多い。

■下肢の静脈の（ **弁** ）の障害により静脈に血液がうっ滞し血管が太くなりこぶのように盛り上がる。

結節性多発動脈炎

■（ **原因不明** ）の全身性の血管炎である。

貧血

■貧血は、赤血球の異常や減少によっておこる。それにより、全身への（ **酸素供給** ）が減る。

■鉄イオンが体内で不足することによって小血球性低色鉄欠乏性貧血素性の（ **鉄欠乏性貧血** ）が起こる。若い（ **女性** ）や妊婦に多い。

■（ **悪性貧血** ）は、B₁₂の腸管からの吸収障害によっておこる。巨赤芽球性の貧血である。

■正球性正色素性の貧血には、（ **再生不良性貧血** ）、（ **溶血性貧血** ）、（ **腎性貧血** ）がある。

■（ **再生不良性貧血** ）は、造血幹細胞の障害によっておこり赤血球、白血球、血小板とも減少する。

■（ **溶血性貧血** ）は自己免疫性溶血性貧血や血液型不適合等によって赤血球の破壊(溶血)がおこる。

■（ **腎性貧血** ）は、エリスロポエチンの分泌低下により赤血球の産生が障害される。

白血病

■腫瘍化した血球細胞の血液中での異常な増殖であり、白血球に多いため（ **白血病** ）といわれる。高齢者で増加傾向にある。

■（ **成人T細胞性白血病** ）はウイルス性の白血病で40歳以上の成人に発症する。

血友病

■第八、もしくはIXの（ **血液凝固因子** ）異常により、血液凝固障害をおこす。

■（ **伴性劣性** ）遺伝病で、男児に現れる。

■血小板数は（ **正常** ）で、出血時間とプロトロンビン時間は正常であるが全血凝固時間は延長する。

■重症例では、関節内出血の繰り返しによる（ **関節の変形** ）や、（ **頭蓋内出血** ）による死亡がみられる。